

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

果樹カメムシ類の発生状況(技術情報第2号)について(送付)

果樹カメムシ類の発生状況および防除について下記のとおり取りまとめましたので、業務の参考に御活用ください。

記

5月第1半旬より各地の予察灯及びフェロモントラップの誘殺数が急増しています。本年は、チャバネアオカメムシの越冬量が過去10年で最も多かったことから、果樹カメムシ類の活動が本格化すると例年より多くの個体が果樹園に飛来して被害を発生させる恐れがあるので、園内見回りによる早期発見と発生初期の防除を徹底しましょう。

1 発生状況

- (1) 合志市、宇城市、天草市に設置している予察灯及びフェロモントラップにおける果樹カメムシ類の誘殺数は5月第1半旬に急増しており(図1、2、3)、昨年及び平年より早く果樹カメムシ類の活動が始まったと考えられる。
- (2) 令和2年1~2月のチャバネアオカメムシの越冬成虫数は、県下16地点で合計130頭(前年1頭、平年8.2頭)と過去10年で最も多く(図4)、本年7月までのチャバネアオカメムシの発生量は平年に比べて多いと予想される(令和2年(2020年)3月3日付病防第144号「令和元年度(2019年度)病虫害発生予察注意報第4号」を参照)。
- (3) 福岡管区气象台が5月7日に発表した九州北部地方1か月予報によると、向こう1か月の気温は平年より高く、果樹カメムシ類の活動がさらに活発になることが予想される。

2 防除対策

- (1) 果樹カメムシ類は、局地的に飛来し、被害をもたらすことがあるので、定期的に園を見回り、早期発見と薬剤による初期防除を徹底する。特に、山間部や山沿いの園地は被害を受けやすいので注意する。
- (2) チャバネアオカメムシ及びツヤアオカメムシの予察灯及びフェロモントラップの誘殺数データを病虫害防除所のホームページ(<http://www.jppn.ne.jp/kumamoto/>)に掲載しているので、最新の誘殺状況を確認し、防除要否や防除適期の参考にする。
- (3) 果樹カメムシ類は日没直後に果樹園に飛来し、翌朝飛び去るため、夕方や早朝の防除が有効である。
- (4) ピレスロイド系殺虫剤の多用は、天敵等への影響が大きく、ハダニ類の発生を助長するので、最小限の使用にとどめる。
- (5) 薬剤の使用にあたっては、使用回数、濃度、使用量、使用時期を遵守するとともに、周辺作物への農薬飛散(ドリフト)に注意する。

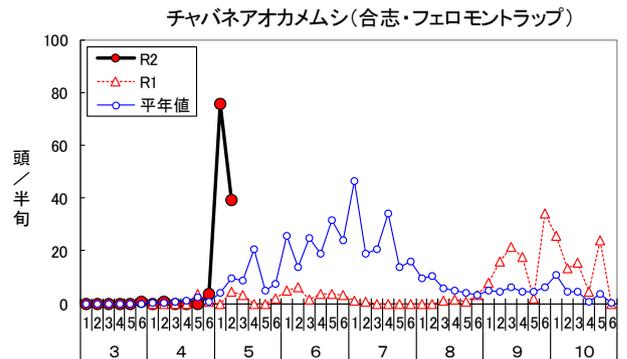
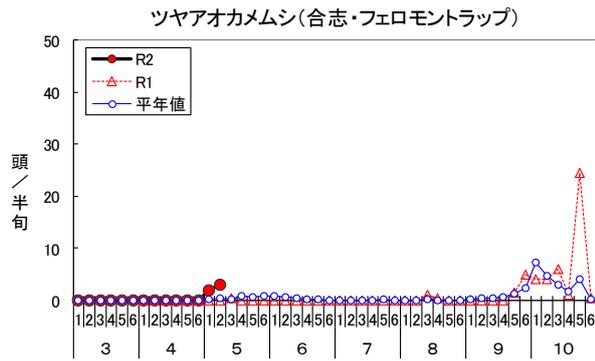
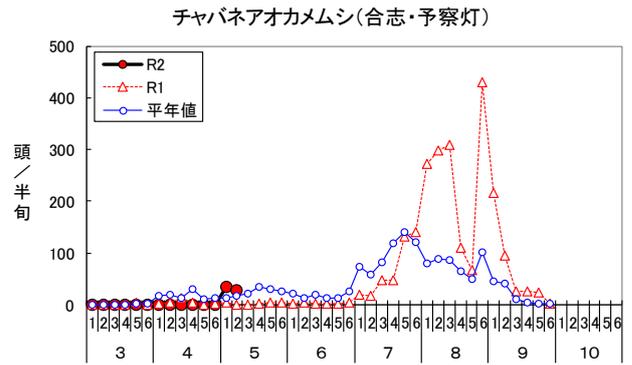
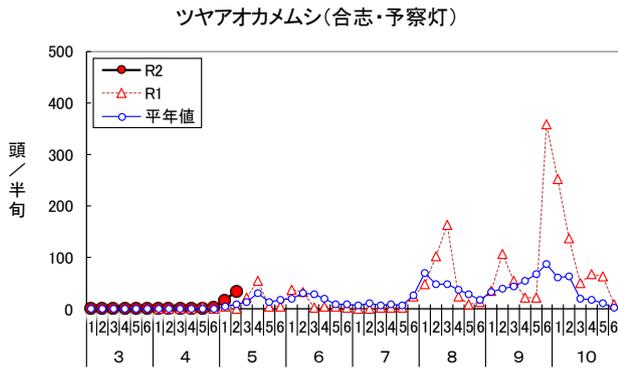


図1 合志市における果樹カメムシ類の誘殺数の推移 (設置場所：農業研究センター)

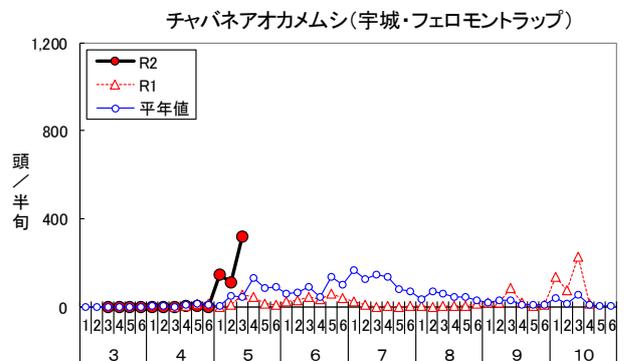
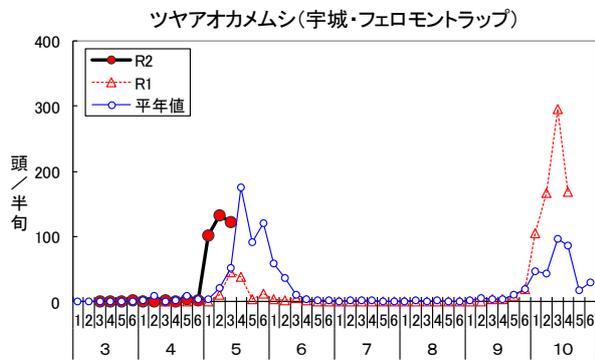
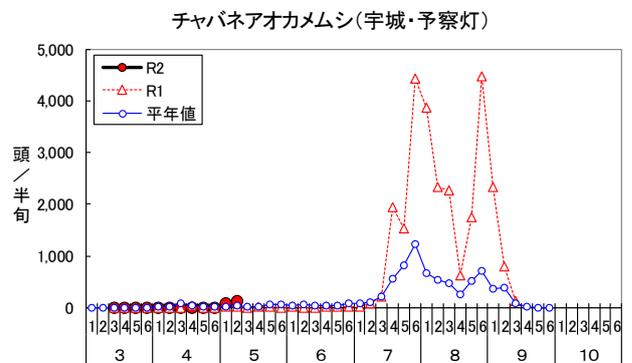
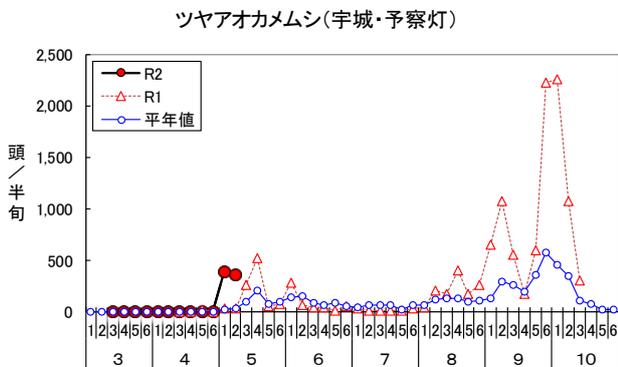


図2 宇城市における果樹カメムシ類の誘殺数の推移 (設置場所：果樹研究所)

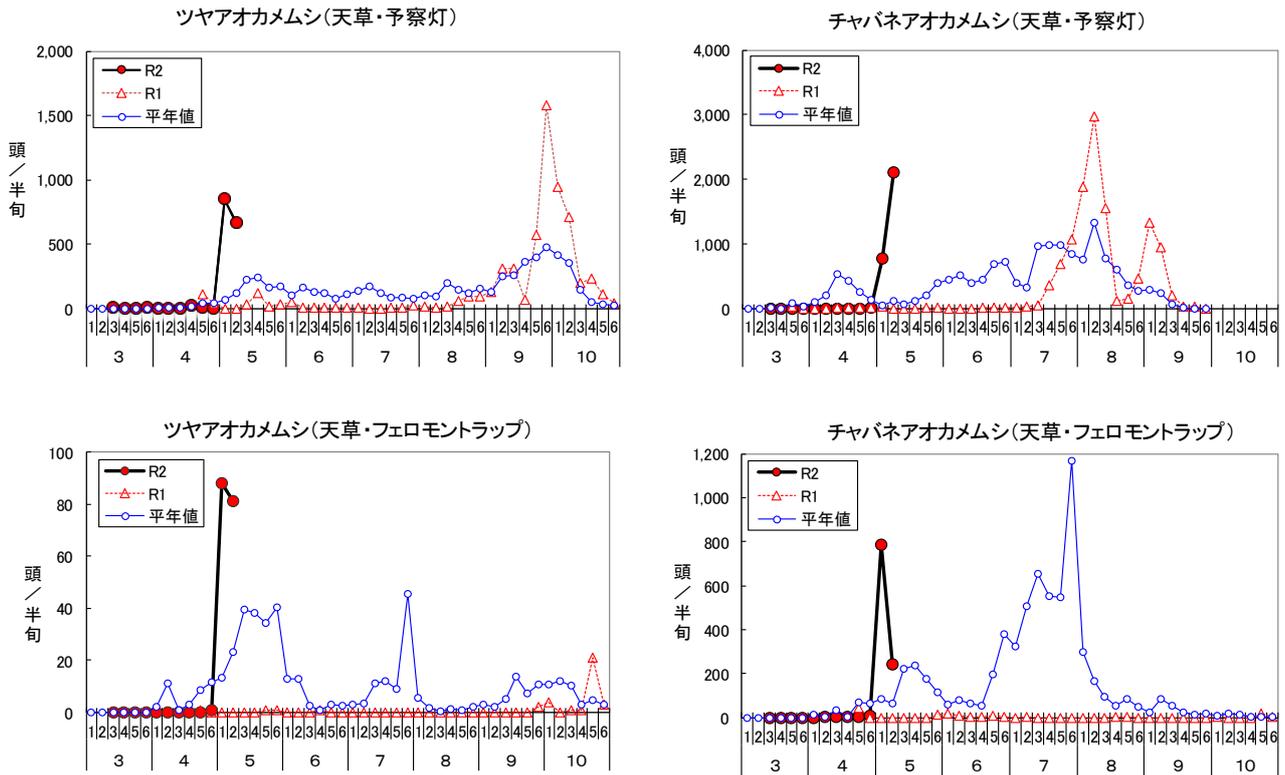


図3 天草市における果樹カメムシ類の誘殺数の推移（設置場所：天草農業研究所）

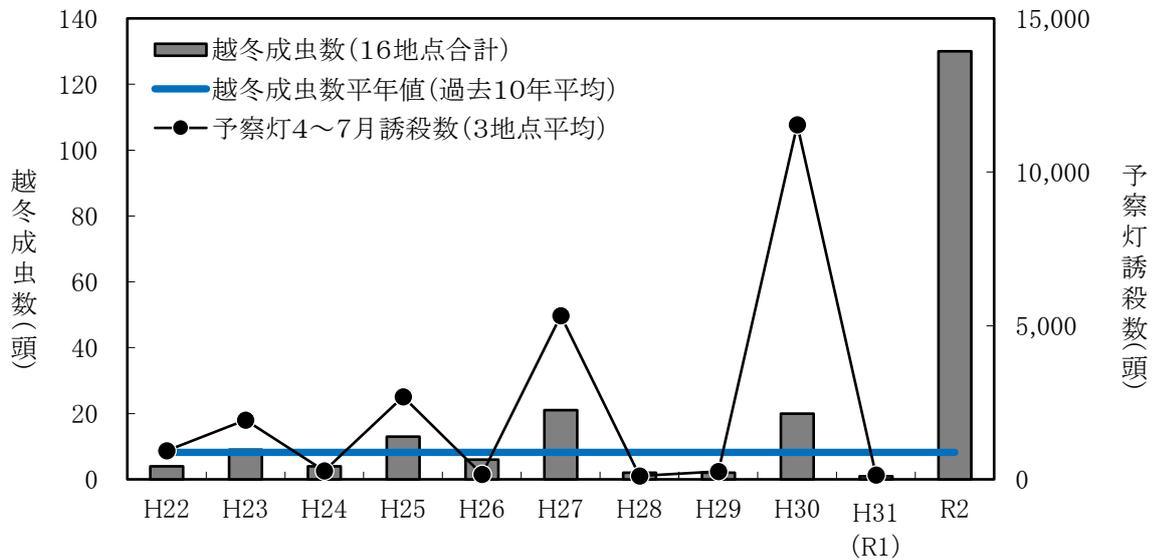


図4 チャバネアオカメムシの越冬成虫数と予察灯4～7月誘殺数の推移

- 1 「越冬成虫数」は、各3m²調査した16地点の合計頭数を示す（左縦軸）。
- 2 「予察灯4月～7月誘殺数」は、合志市栄、宇城市松橋、天草市本渡に設置した3台の予察灯の4月から7月までの誘殺数累計の平均値を示す（右縦軸）。
- 3 チャバネアオカメムシの越冬量は、その年の7月までの発生量の指標となる4～7月の予察灯誘殺数と正の相関が認められる。

熊本県農業研究センター 生産環境研究所
 病害虫研究室 予察指導係（病害虫防除所）
 担当：中村、丹 TEL：096-248-6490